



# 文化分野における民間資金・先端技術の 活用推進と先進事例の横展開等（民間資金や先 端技術の活用による文化財の高精細レプリカやVR作成等）

文化庁

- 文化芸術推進基本計画 (H30.3閣議決定)
- 文化経済戦略 (H29.12 内閣官房・文化庁)



《文化政策の転換》

- 文化庁による「文化の振興」、「文化財の保護」
- 少子高齢化や過疎化の進展による文化財保護の限界

- 文化芸術の多様な価値と観光・街づくり・国際交流・福祉・教育・産業等の関連分野との有機的な連携 (文化芸術基本法:H29.6成立)
- 文化芸術に対する効果的な投資とイノベーションの実現 (基本計画 戦略2)
- 文化芸術の「本質的価値」・「社会的経済的価値」を創出

## これまでの先進事例

### 東博×凸版

■2013年から東博「ミュージアムシアター」で公開



## H29・30年度

文化財の観光活用に向けたVR等の制作・運用ガイドライン(H30.2文化庁)の策定・周知

(独)国立文化財機構「文化財活用センター」(仮称)※の発足(H30年夏)

※我が国初の文化財活用の相談窓口のワンストップ化  
※先端技術を持つ民間企業と連携した文化財の高精細レプリカ・VRの開発・公開

## H31年度～

全国へのガイドライン・先進事例の横展開

センター機能強化  
(コンテンツ・ノウハウの横展開)

地方自治体、博物館・美術館、寺社等の文化財所有者へ

東京国立博物館は歴史的、芸術的、学術的観点から作品の付加価値を高めるための監修、凸版印刷株式会社は、形や色を精確に記録するための超高精細撮影、立体形状計測や色彩計測による文化財のデジタルアーカイブ及びVR技術による新たな表現技術の開発・制作との役割分担のもと、作品を制作し、2013年から「ミュージアムシアター」として、貴重な文化財の新しい魅力を発信。

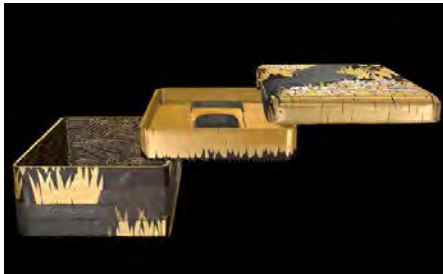
## 過去の作品例



2017年『土偶』



2016年『洛中洛外図屏風』



2016年『八橋蒔絵螺硯箱』



2015年『国宝 檜図屏風と狩野永徳』

## 2018年の作品例



2018年『風神雷神図のウラー夏秋草図に秘めた想い』

酒井抱一の最高傑作作品に込められた「オモテとウラ」の秘密を探る  
2018年『伊能忠敬の日本図』4/25～7/1

右図は、「VR体験コーナー」『歩け！伊能くん』コントローラーを自分で操作しながら伊能図の世界を自由に歩く。



	作品名		作品名
2013	よみがえる江戸城	5	興福寺 国宝 阿修羅像
	洛中洛外図屏風と岩佐又兵衛		東博のミイラ デジタル解剖室
	バーチャルで土偶に遭遇		よみがえる江戸城 上野編
	二条城障壁画		国宝 檜図屏風と狩野永徳
	三蔵法師の十一面観音		安土城から檜図、そして二条城へ
2014	アンコール遺跡パイオン寺院	6	仁清が作った茶壺
	法隆寺宝物館 聖徳太子名品		東博のミイラ デジタル解剖室
	DOGU 国宝になった女神		洛中洛外図屏風 舟木本
2017	DOGU 縄文人が込めたメッセージ	7	色絵月梅図茶壺・八橋蒔絵螺硯箱
	伊能忠敬の日本図		土偶 縄文図鑑でめぐる旅
	キトラ古墳		熊本城 一清正が築いた不落の名城
			江戸城の天守

など